

小菅泰雄の作曲法－自ら掴んだ黄金比作曲法－

1. はじめに

PC (パソコン) のGoogle Chrome (グーグル・クローム) を開きます。「小菅泰雄」と入力します。

①～⑤が表示されます。

①「小菅泰雄Facebook

②ピティナ・ピアノ曲事典「小菅泰雄とは？ わかりやすく解説Weblio辞書

③小菅家の人々と伊古田純道さいたま記念病院

④ya-kosuge.com小菅泰雄公式サイト (小菅泰雄ホームページ)

⑤葵の会 と5項目ほど見出しの検索標題文字列が表示されます。

この中に「小菅泰雄 YouTube」があります。「小菅泰雄 YouTube」に関心をお持ちの方は選んでクリックしてご覧下さい。

小菅泰雄 YouTubeには次のような説明文が掲載されています。

「説明日本作曲協議会(JFC)、詩と音楽の会(ACA)、埼玉県音楽家協会、葵の会各会員です。各会の新作発表ライブ演奏を作品集としてYouTubeにアップロードいたしました。「可憐なる小さき歌」シリーズは、青年時代からその時々的心情や印象をシンセサイザーを使って曲にまとめたものです。私も「可憐なる小さき歌」シリーズを聴いて、心をリフレッシュしています。

⑥小菅泰雄 黄金比作曲法が新たに表される予定です。この文章が今回アップロードした目的の著作です。

2. 小菅泰雄 黄金比作曲法

黄金比作曲法は、実は、思いついて直ちに作り上げた作曲法ではありません。小菅泰雄 YouTubeに150曲以上の若かりし頃から最近までの作曲初演の録音をアップロードいたしました。このような数ある曲の「楽譜」も、PCにアップロードしてあったのですが、時を経る中で保存したまま、何時しか見失ってしまいました。

見失った「楽譜」は仕方ありません。ここに、現在使っている「小菅泰雄の作曲法」を「黄金比作曲法」と名付けて、PCインターネットにアップロードさせていただきたいと思います。

2. 「小菅泰雄の黄金比作曲法」概論

序文

一般に曲づくりは、まず「メロディー」を作って、次にそのメロディーに「和声付け」をして、そのメロディーと「和声進行」にもつづいて作曲を進めます。

黄金比作曲法「概論」も、「メロディー」「和声進行」「作曲」の順序で述べていきたいと思ひます、

①黄金比作曲法の音階

黄金比作曲法に使われる音階は、次のような「五線1」に全音符で記された音列になります。

この「五線1」の音列を、私は「黄金比音階」と名付けることに致します。

「黄金比音階」について

五線1：黄金比音階

長音階 短音階

全音 全音 半音 全音 半音 全音 全音

主音 下屬音 下屬第三音 屬中音 主中音 下屬中音 屬音 主音

この「黄金比音階」を階名で歌うと、ド レ ミ ファ ソ トラ トラシ ドとなります。

ここから二行単位でごらんください。

前半は4つの全音符ド レ ミ ファ の「全音か」「半音か」を調べるとド レ ミ ファ
全音 全音 半音 となります。

ここも二行単位でごらんください。

後半の4つの全音符ソ トラトラシドの「全音か」「半音か」を調べるとソ トラ トラシ ド
半音 全音 全音 となります。

一行単位に戻してご覧下さい。

後半の4つの全音符ソ トラトラシドの「全音」「半音」の変化を、音階の音の推移で聴いてみると、短調の音階として聴き取ることができます。

してみると「黄金比の音階」とは、音階の前半ドレミファが長調の音階、後半のソ トラ トラシ ドは、短調の音階となって、2種類の音階が一つの音階として聴くことができます。

「黄金比音階」の各音の名前

五線1：黄金比音階の各全音符の真下に、各音の名前が掲載されています。大切なことは、前半の長音階・後半短音階を含めて、下記の音が主要な三つの音になります。

ド：主音になります。

トラシ：属音になります。

レ：下屬音になります。

「黄金比音階」の和音

黄金比の和音を作ります。黄金比の「和音づくり」は、黄金比の音階各音を使って、四度の三和音を作ります。ここでは、主音の「ド」、属音の「トラシ」、下屬音の「レ」を根音にして、根音の下に四度ずつ3つの音を取って、「四度の黄金比主要三和音」を作ります。

「黄金比音階の主要三和音」

五線2が「黄金比音階」の「四度の黄金比主要三和音」、即ち主和音、属和音、下屬和音です。

主和音：「黄金比音階」の「主音ド」を根音にして、四度ずつ2つの音、ドから四度したのソ、ソから四度したのレをとり、作られた「ド・ソ・レ」の四度の三和音が「黄金比音階」の「主和音」です。

五線2：黄金比和音

主和音 下屬和音 属和音 主和音

属和音：「黄金比音階」の「属音♭シ」を根音にして、四度ずつ2つの音、♭シから四度下のファ、ソから四度下のレをとって、作られた「♭シ・ファ・ド」の四度三和音が「黄金比音階」の「下屬和音」です。

下屬和音：「黄金比音階」の「下屬音レ」を根音にして、四度ずつ2つの音、レから四度下のファ、ソから四度下のレをとって、作られた「レ・ファ・ソ」の四度の三和音が「黄金比音階」の「下屬和音」です。

五線2：黄金比和音

主和音 下屬和音 属和音 主和音

以上三つの黄金比和音の主和音・属和音・下屬和音を「黄金比音階の主要三和音」といいます。

五線3：黄金比音階の副三和音

主音 下屬音 下屬第三和音 属中和音 主中和音 下屬中和音 属音 主音

「黄金比音階の副三和音」

黄金比音階にもとづく音階で、主要三和音以外の三和音を黄金比音階にもとづく副三和音といいます。

黄金比音階の副三和音は「五線3：黄金比音階の副三和音」に示したとおりです。それぞれの副三和音は次のとおりです。

下屬第三和音：「黄金比音階」の副三和音の一つである「下屬第三和音」は、「下屬第三音ミ」を根音にして、四度ずつ2つ下の音、ミから四度下の♭シ、♭シから四度下の音ファをとり、作られた「ミ・♭シ・ファ」という四度の三和音が「黄金比音階」の下屬第三和音です。

属中和音：「黄金比音階」の副三和音の一つである「属中和音」は、「属中音♭ラ」を根音にして、四度ずつ2つの音、ファから四度下のド、ドから四度下のソをとり、作られた「ファ・ド・ソ」という四度の三和音が「黄金比音階」の属中和音です。

下屬中和音：「黄金比音階」の副三和音の一つである「下屬中和音」は、「下屬中音♭ラ」を根音にして、四度ずつ2つの音、♭ラから四度下したのミ、ミから四度下の音♭シをとり、作られた「♭ラ・ミ・♭シ」という四度の三和音が「黄金比音階」の下屬中和音です。

3. 黄金比作曲法の具体的記述を試みる

5線4：黄金比音階と主要三和音

1 2 3 4 5 6 7 8

主音 下屬音 下屬第三音 属中音 主中音 下屬中音 属音 主音

下屬和音 下屬第三和音 属中和音 主中和音 下屬中和音 属和音 主和音

黄金比作曲法の実践報告

題材：標題付き単一楽曲「大和撫子の恋」(やまとなでしこのこい) 小菅泰雄 作曲

楽器編成：木管楽器(Flute & Piccolo、Oboe、B♭ Clarinetto、F Horn、Fagotto)の5名の編成

弦楽器 (Violin I、Violin II、Viola、Violincello、contrabass) の5名 以上合計10人

初演：2007年12月14日(金) 台東区立旧東京音楽学校演奏堂、第25回グループ蒼新作演奏会

備考：どのような和音かを知るために記譜上は、すべての楽器をハ長調 (in C) で書いています。

B♭クラリネットは、移調楽器ですがハ長調 (in C) で記譜しています。

Fホルン：移調楽器ですが、記譜はCですがハ長調 (in C) で記譜しています。

Full score
Introduction

大和撫子の恋

小菅泰雄 作曲

A Adagio ♩ = 60

Piccolo
Oboe
B Clarinet
Bassoon
Violin I
Violin II
Viola
Cello
Contrabass

B

Picc.
Ob.
Cl.
Hr.
Bsn.
Vln. I
Vln. II
Vla.
Vlc.
Cb.

黄金比作曲法の実践と報告の手順を述べる第一歩は、「黄金比作曲システム－調号付－」の使い方から始めます。「黄金比作曲システム－調号付－」をどのように使うのか。どの部分が必要かに触れることから始めます。下の五線譜は「黄金比作曲システム－調号付－」というシステム表の12番目の表です。

「黄金比作曲システム－調号付－」システム表の12番目の音階12

下記は「黄金比作曲システム－調号付－」の音階12 F音～F音の音階と主要三和音です

黄金比音階によるI巡目 音階12

以上の2つを資料にして、「大和撫子の恋」の作曲を進めます。

「黄金比作曲システム－調号付－」という「12種類の黄金比音階の一覧表」の12番目の音階の、「音階12」を使って作曲を進めます。

資料の確認：「大和撫子の恋」の作曲を進める2つの資料は、その1とその2↓です。

その1：「黄金比作曲システム－調号付－」という「システム表」の中の12番目に示した「音階12」と、その2：「黄金比音階による1巡目音階12」という2つの資料。同じ趣旨で作った、この2つの資料の中味は同じものです。つまり、中味は同じ資料です。

初めに1巡目音階12を使って作曲する

初めに「黄金比音階による作曲システム表」を使って作曲を開始します。「1巡目」という言葉の意味は、「黄金比作曲システム表」をつかって作曲していく「一回目」という意味です。黄金比音階による1巡目「音階12」とは、「黄金比作曲システム表」の音階12をつかって「1回目の黄金比作曲システムによる作曲を行う」という意味です。

黄金比音階12の主音はF音、曲の冒頭で「大和撫子の恋」のメロディーを受け持つピッコロが、F音中心の音階12によるメロディーを奏でます。日本女性「大和撫子」をイメージさせる日本の楽器「篠笛」であるピッコロに、F音から始まるメロディーがしっかりとフィットしてほしい。

私の作曲感覚では、フィットすることができなかった曲の冒頭。黄金比音階12のF音から「大和撫子の恋」が始まるのではなくて申し訳ありませんが、開始音を別の音から始めることにさせて戴きました。

前のページのフル・スコアを参照していただきまして、ピッコロの開始音がfis音であるとご確認ください。

このページに掲載されている二種類の黄金比音階12。この二つの「音階12」の「上側の音階12」。

「1小節目に大きい数字で12」と書かれたその下の部分に、小さな数字で「221」と書かれた「三段譜」。その黄金比音階12三段譜の「三段目」の、副縦線で区切った「右側11小節」の五線も上側に、四度の和音が11小節記載されています。その記載された11種類の四度和音の、「五線の上側に記載された小さな数

字と小さなT,S,D,TT,Dは、全音符で各小節に記載された四度の和音記号です。それでは、全音符で各小節に記載された四度の和音記号を説明いたします。

↑「黄金比音階12」副縦線で区切った三段譜の右側です。
三段目11小節」の五線上側、「四度の和音記号」を説明。

「四度の和音記号」の説明（11小節を左から右に順に説明します）

- T：トニカ（主和音）＝四度の主和音の和音記号です。
- 2：「黄金比作曲システム」の「黄金比音階」「第二音」です。「2」と省略して記載しています。
- S：サブ・ドミナント＝四度の下屬和音の和音記号です。
- 29：黄金比数→1 2 3 4 7 11 18 29 47を音に置き換えた「音」。階名「ラ」。「ラ」を主音にした四度和音。
- D：ドミナント＝四度の属和音の和音記号です。
- TT：対軸トニカ＝四度の対軸トニカ和音の和音記号です。
- T：トニカ（主和音）＝四度の主和音の和音記号です。
- S：サブ・ドミナント＝四度の下屬和音の和音記号です。
- D：ドミナント＝四度の属和音の和音記号です。
- TT：対軸トニカ＝四度の対軸トニカ和音の和音記号です。
- T：トニカ（主和音）＝四度の主和音の和音記号です。

「大和撫子の恋」曲の冒頭の音楽的表現 練習番号A

練習番号A 日本の楽器である篠笛のメロディーをピッコロで表現しようと試みました。ピッコロでも演奏可能かどうか、glissandを多用する「大和撫子」の曲冒頭からの5小節です。篠笛の方が、glissandは可能かもしれません。曲の冒頭からの6小節は、glissandしたのかどうか、はっきり判らなければ演奏効果や音楽的效果が期待できません。

日本の楽器「篠笛」に期待する音色やglissand効果は、高雅さや・ゆかしさでありましょようか。これら音色や演奏効果への期待感は、大和撫子の存在そのものに対する期待、あるいはピッコロという楽器の音色や演奏効果への期待に集約されるのでありましょようか。

「黄金比作曲法」での作曲で使う-1回目音階 ・ 1巡目音階-は音階12

練習番号A 今までにお話したこと、「大和撫子の恋」の作曲に使う資料は「黄金比作曲システム表」であること。I巡目作曲は、黄金比音階12を使って作曲するということ。「黄金比作曲法で使う最初の音階は、音階12である」ことを理解していただけましたことと思います。

この著作の4ページに表示した「大和撫子の恋」フルスコアでお判りいただいたように、練習記号Aは第1小節から第7小節迄であります。

練習記号Bは、第8小節からはじまり、7ページに示した「大和撫子」フルスコアの2ページ目の18小節目までの11小節で、イントロダクションの続きです。オーボエが篠笛のテーマを引き継いでいます。

「黄金比作曲システム表」による「黄金比の音階」は、I巡目音階12から「黄金比の音階1」に移ります。

「まとまりの単位」とは何か

「大和撫子の恋」を使って作曲している「黄金比作曲システム」は、「黄金比作曲システム表」に表示されている1～12の「黄金比音階」の番号が表示されています。

この「黄金比音階」の番号を使って「大和撫子の恋」を作曲していますが、「黄金比音階12」から始めて、2番目に「黄金比音階1」、3番目に「黄金比音階2」と、順序よく「黄金比音階」を使って、作曲を進めていって「黄金比音階11」まで使ったならば、「黄金比音階」I巡目が使い終わったこととなります。音階12から使い始めた音階が、音階11まで使い終えたこととなります。

そして2巡目「黄金比作曲システム」使用に入ります。2巡目「黄金比音階1 1」まで使ったならば、3巡目に入るといふ風に作曲を進めていきますが、作曲を進めている「大和撫子の恋」の「楽式感」が「美しくまとまりがよい」といふことがお判り頂けたとして、「黄金比音階」の7小節区切りや1 1小節の区切りを、**まとまりの単位**と総称しています。下の楽譜は「大和撫子の恋」の第2ページです。

大和撫子の恋

The musical score is presented in three systems. The first system (measures 13-18) includes parts for Flute (Fl.), Oboe (Ob.), Clarinet (Cl.), Horn (Hr.), Bassoon (Bsn.), Violin 1 (Vln. 1), Violin 2 (Vln. 2), Viola (Vla.), Violoncello (Vlc.), and Contrabass (Cb.). The second system (measures 19-25) continues with woodwinds and strings. The third system (measures 26-30) focuses on the string section with detailed dynamics and tempo markings like 'a tempo', 'accel.', and 'rit.'. The score includes various musical notations such as dynamics (mf, p, f), articulation (pizz., arco), and phrasing slurs.

「大和撫子の恋」フルスコアの2ページ目です。「大和撫子の恋」の冒頭、イントロダクションの続きです。「黄金比作曲システム」一巡目音階1の部分であるこの部分は、練習記号[B]の区切り、8小節目～18小節目の11小節です。練習記号[B]の部分は、「大和撫子」のピッコロによる「篠笛をイメージ」したテーマをオーボエが引き継いだところにあたります。練習記号[B]の第2小節、3拍目のHr.に、C→Fが四分音符で入りますが、練習記号[B]の和音について考えてみましょう。「黄金比作曲システム」一巡目音階1、練習記号[B]の主和音TはCGDという四度の和音です。[B]の主和音TはCGD、この和音の主音はC、C音の四度下の音はG音、更にもその四度下の音はD音、CGDという四度の和音が[B]の主和音Tです。

この四度の和音は、もう記憶に新しい方がいらっしゃると思いますが、この著作の**2ページ目**に書いてある、「黄金比の音階」と、「黄金比音階の主要三和音」が、「黄金比作曲システム」の「音階1」なのです。既にご覧にばられているのですが、補足すると[B]の下属和音はD♭A E、属和音は♭B F Cです。

- 1 段目： 1 3 小節～1 8 小節目
- 2 段目： [C] 1 9 小節～2 5 小節目
- 3 段目： 2 6 小節～3 0 小節目